

船舶事故等調査報告書

平成22年1月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009門第47号	
事故等種類	運航阻害	
発生日時	平成21年1月22日 10時10分ごろ	
発生場所	大分県国東市武蔵町糸原所在の大分空港飛行場灯台から東2海里付近 (概位 北緯33°28.6′ 東経131°46.5′)	
事故等調査の経過	平成21年3月16日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 貨物船 久美丸、199トン 133667、山田汽船有限会社	
乗組員等に関する情報	機関長、四級海技士（機関）	
死傷者等	なし	
損傷	機関室船底外板に直径約3cmの破孔	
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、鋼材約611トンを積載して航行中、平成21年1月22日10時10分ごろ、大分空港東方沖で、突然、ビルジ警報装置が作動した。 本船は、機関長が機関室に赴いたところ、機関室船尾側船底部から浸水していたことから、排水作業を行いつつ大分港に引き返し、潜水士が船底調査を実施した結果、機関室船底外板に小さな破孔が発見され、応急修理を施したのち上架して修理された。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風速 約1m/s、視界 良好 海象：うねり なし	
その他の事項	本船は、平成19年12月定期検査時の船底外板肉厚検査で異常が認められておらず、機関室船底外板の破孔が局部的なものであった。 また、破孔した箇所は測深棒等でビルジ計測を行う箇所でなかった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし あり なし 機関室船底外板の破孔は、局部的なものであり、機関室船底にボルト及びナット等の金属が落ちていた可能性があることから、船底に落ちていた金属と船底外板との間に局部電池が形成され、電気腐食により生じた可能性があると考えられる。
原因	本インシデントは、機関室の船底に落ちていた金属と船底外板との間に局部電池が形成されたため、本船が大分空港東方沖を航行中、電気腐食で船底外板に破孔が生じたことにより発生した可能性があると考えられる。	
備考	船底にボルト等の金属を落とさないようにするとともに、定期的に船底清掃を行っておくべきである。	